

愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

平成 19 年 11 週(3月2週 3/12~3/18)

(作成) 愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

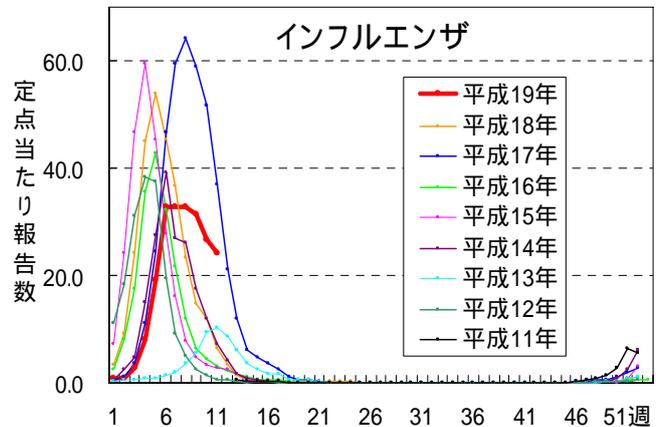
- ・ 注意する感染症
- ・ 定点医療機関コメント
- ・ 全数把握感染症発生状況
- ・ 感染症だより(3月前半)
- ・ WHO 疫学週報抄訳
2007年3月2日(82巻9号)
インフルエンザワクチン;07年~08年の流行期用ワクチン組成
2007年3月9日(82巻10号)
世界のインフルエンザ流行状況
髄膜炎菌性髄膜炎:アフリカで予測される大流行に対する準備
- ・ 定点把握感染症報告数 (保健所別、年齢別)

注意する感染症

インフルエンザ警報発令中および「集団かぜ」発生状況(第41~42報)

11週の定点あたりインフルエンザ患者報告数は24.0人(前週比0.9倍、5,216人、4,686人)です。6保健所管内で警報レベル(定点あたり患者報告数30.0人以上)、8保健所管内で注意報レベル(同10.0人以上30.0人未満)となっています。

「集団かぜ」は3月20日現在で延べ634施設(前年同期340施設)から報告されています(概要は以下の発表内容をご覧ください)。これまでの患者からインフルエンザウイルスA香港型およびB型が分離されています。



【発表内容】

- ・ インフルエンザ警報; <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hodo070208flukeiho.pdf>
- ・ 第41~42報; http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hodo070315_070319.pdf

【参考ページ】

インフルエンザウイルス分離状況 http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infbunri06_07.html

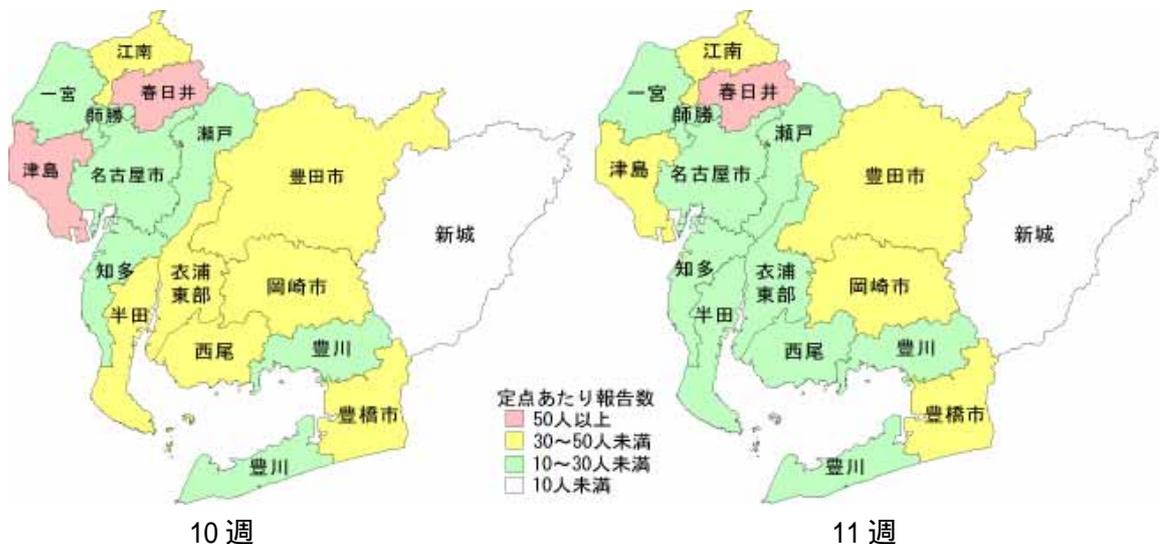


図 保健所別定点あたりインフルエンザ患者報告状況

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

インフルエンザ 102名(A型48名、B型44名)

【一宮市 一宮市立市民病院】

インフルエンザ A型4名、B型10名
この内4歳男 A・B重複感染。

【一宮市 後藤小児科医院】

病原性大腸菌 O1 35歳 女
O74 2歳 女

【一宮市 城後小児科】

インフルエンザ A型20名、B型26名
病原性大腸菌 O25 5歳男 血便ないが腹痛。

【一宮市 平谷小児科】

インフルエンザ A型19名 B型10名

【稲沢市 稲沢市民病院】

インフルエンザA型7名、B型19名
RS、アデノ、伝染性紅斑、A群溶連菌
が入り混じっています。ロタも多い様です。

【犬山市 武内医院】

インフルエンザ流行続いています。A型の割合が少し増加しています(A型22名、B型64名、A、Bともに陽性2名)。

感染性胃腸炎も多くみられています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

2歳男、2歳女、6歳男、5歳女、7歳男、6歳女、1歳7か月女、3か月男、3歳女 ロタウイルス(+)。ロタウイルス胃腸炎多いです。入院例もあります。

インフルエンザ減少傾向ですが、いまだ続いています。

【春日町 丹羽医院】

インフルエンザA型 23名

インフルエンザB型 20名

麻疹 13歳男(ワクチン接種済)

【津島市 医療法人参育会加藤医院】

尾張東部地区

ロタウイルス感染を含む感染性胃腸炎が多い。

インフルエンザはA型11名、B型18名と多くない。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

インフルエンザはA型が増えてきました(A型16名 B型8名)。

溶連菌感染症も増加(成人例も数例みられます)。

その他咽頭結膜熱、水痘等。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

9歳男 B型インフルエンザ

32歳男、46歳男 A型インフルエンザ

【豊明市 豊明団地診療所】

インフルエンザBが減少傾向。

A型が増えてきています。

【春日井市 春日井市民病院】

A型インフルエンザ21例

B型インフルエンザ35例

A B陽性1例

アデノウイルス感染症少々

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

5歳女インフルエンザA B混合感染。3日のタイムラグで2回発熱していた。

【春日井市 竹内医院】

インフルエンザ流行続く

【小牧市 小牧市民病院】

インフルエンザはやや減少傾向です。

ロタウイルス感染症増加、アデノウイルス感染、溶連菌感染も見られます。

【小牧市 志水こどもクリニック】

インフルエンザA型5名、B型18名。

感染性胃腸炎、インフルエンザ多いです。

溶連菌も多いです。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

A型19名、B型7名

【半田市 半田市立半田病院】

インフルエンザA 7名、B 1名

【半田市 医療法人林医院】

A 7名、B 23名

【半田市 医療法人おっかわこどもクリニック】

マイコプラズマ感染症 2名

【美浜町 厚生連知多厚生病院】

感染性胃腸炎 ロタウイルス 6人

咽頭結膜熱 アデノウイルス 2人

インフルエンザウイルス

~14歳男 A型 1人 B型 2人

女 A型 3人 B型 1人

【東海市 東海市民病院】

インフルエンザ A型22名 B型9名

A型インフルエンザが増えてきました。

胃腸炎・溶連菌感染症流行中

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

インフルエンザ(A型) 7名
インフルエンザ(B型) 18名
ロタ腸炎(+) 5名
RSV(+) 1名
StrepA(+) 10名
2歳女 E.coli(O166)+(O25)
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
インフルエンザB型 34名
インフルエンザA型 10名
【豊田市 田中小児科医院】
インフルエンザB型 7人
インフルエンザA型 13人
【豊田市 足助病院】
病原大腸菌血清混合7(+)O124(+)
アデノウイルス女 2歳10か月
病原大腸菌O1(+) 男 5か月
インフルエンザA 16例、B 21例
【岡崎市 花田こどもクリニック】
2歳女 病原性大腸菌O1 VT(-)
1歳男 病原性大腸菌O25 VT(-)
インフルエンザ感染症 A型8名(ワクチン接種者4名)
その他全てB型
感染性腸炎、水痘多いです。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
インフル B 16、インフル A 4
【岡崎市 にいのみ小児科】
インフルエンザA型 8、B型 34
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
インフルA 5名
【岡崎市 医療法人志貴こどもクリニック】
インフルエンザA型13名(ワクチン済8名)
インフルエンザB型19名(ワクチン済5名)
A・B型とも(+)1名(ワクチン済)
【岡崎市 栗屋医院】
インフルエンザA型5名(予防接種済1名)
インフルエンザB型9名(予防接種済7名)
【岡崎市 医療法人永坂内科医院】

A型2名、B型21名。依然としてB型優位です。1名は2月にA型、今回B型(ワクチン接種済)に罹患。

【岡崎市 村山医院】

インフルエンザ減ってはいますが、出ています。

ロタウイルス感染症も含めた感染性胃腸炎も目立ちます。

【碧南市 永井小児クリニック】

インフルエンザ:A 17例、B型5例
あとはマイコ感染症

【刈谷市 田和小児科医院】

総検体数 159、A型 31、B型 16

【安城市 安城更生病院】

インフルエンザ 42名

インフルエンザA 20名

インフルエンザB 22名

18日 日曜当直でインフルエンザ20名

ロタウイルス陽性 9名

【知立市 宮谷クリニック】

A 7、B 8。インフルエンザがまだ流行中です。A、Bほぼ同数です。

【三好町 三好町民病院】

インフルエンザ40人(A型13人 B型27人)
感染性胃腸炎増加

【西尾市 山岸クリニック】

インフルエンザは前週までと同じB型がほとんどです。

5歳女カンピロバクター

1歳男 病原性大腸菌O1 VT-

3歳男 アデノ

【幸田町 とみた小児科】

インフルエンザ A 2名、B 1名

手足口病10歳女

嘔吐が多く見られます。

【西尾市 やすい小児科】

東三河地区

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が増えました。
インフルエンザの流行は少し落ち着いてきました。
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
インフルエンザA型9名、B型7名
【豊橋市 おだかの医院】
インフルエンザはA型28名、B型41名、
A B同時陽性1名の計70名でA型が増えました。
【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】

病原大腸菌O-1 1歳女

【豊川市 ささき小児科】

ロタウイルスは減っている。

インフルエンザA・Bとも多い

【豊川市 豊川市民病院】

一 ～ 三類感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

<関連リンク> 届出基準 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun060612.pdf>)

細菌性赤痢		(二類感染症)					
番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備考
1	知多	58	男	3/5	3/10	3/13	感染地域不明
2	知多	28	男	2/28	3/10	3/13	感染地域不明

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

A型肝炎 1例

アメーバ赤痢 2例

推定感染地域；国内、感染経路不明

推定感染地域；国内、推定感染経路；性的接触

梅毒 1例

・早期顕症、推定感染地域：国内、推定感染経路：性的接触

感染症だより(3月前半)

平成19年3月22日

愛知県衛生研究所企画情報部(文責 磯村)

白木蓮や雪柳の白い花が咲き、櫻の開花便りが待ち遠しい昨今です。卒業式のシーズンで女子大のキャンパスでは華やかな和服姿が目立ちますが、皆さんデジカメという近代的武器を装備していらして当方、年を感じてしまいます。いつも貴重な情報を有難うございます。3月前半のまとめをお送りします。

1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からインフルエンザの流行が続き、A型とB型がほぼ同数、重症例の入院あり、ロタウイルス感染症が増加、入院が目立ち、アデノウイルス感染症と溶連菌感染症が比較的多く迅速診断が欠かせない状況で、重症のロタ、インフルエンザに次いでマイコプラズマの入院が目立つ、城北病院の渡辺先生からはインフルエンザA、Bとも激減、アデノ陽性者散発、ロタウイルス性胃腸炎はまだ減少傾向なく水痘散見(ワクチン接種例もあり)、第二日赤岩佐先生からはロタ、RSが多くインフルエンザはピークが過ぎ、川崎病が多い、千種区今枝先生からはインフルエンザ2名、他に感染症なし、三菱病院入山先生からはインフルエンザはかなり落ち着いてきて6名程でAB半々、感染性胃腸炎10数名のうちロタウイルス性腸炎が4名(2名入院)、咽頭アデノウイルス感染症7名(入院4名)、伝染性単核症1名、気管支炎・肺炎の入院8名、中京病院柴田先生からはインフルエンザはAとBが同じくらい、ロタウイルスなどの感染性腸炎が目立ちロタウイルス、インフルエンザでの入院が目立つ、とのお手紙でした。

2)尾張地区:犬山市武内先生からはA群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘がそれぞれ散発中、A型インフルエンザ、B型インフルエンザの流行が続いている、常滑市民病院高橋先生からはインフルエンザはA<Bで要入院例あり、ウイルス性腸炎でロタウイルスが多いが(入院例多い)便アデノウイルス(+)もあり、咽頭結膜熱1例、アデノ扁桃炎の入院1例ありとのお手紙でした。

3)三河地区:トヨタ記念病院木戸先生からはインフルエンザAちらほら、RSVはおちついた、ロタウイルス腸炎(入院例目立つ)がまだあり、刈谷市田和先生からはインフルエンザは全体として減少、A、Bが逆転してAが主流、他はマイコ感染症とロタウイルス腸炎が少し目立つ、豊橋市長屋先生からはロタウイルス胃腸炎が多く、他はウイルス性気管支炎、B型インフルエンザからA型インフルエンザなど、とのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部(文責 磯村)

2007年3月2日(82巻9号) <http://www.who.int/wer/2007/wer8209/en/index.html>

インフルエンザウイルスワクチン。07-08年流行期用ワクチンの組成 WHO 推奨株:07年11月-08年4月の北半球の流行期に接種するワクチン株組み合わせ。(1)06年9月-07年1月のインフルエンザ発生の概略:アフリカ、南北アメリカ、アジア、欧州、オセアニアで発生をみたが全体に例年より流行は少なく、南半球では9月にマダガスカルではじまったA(H3N2)も10月に終息、北半球では例年より遅く11月に流行開始、12月に北米、1月に欧州で流行。A(H1N1)は米合衆国を主体に北米で、A(H3N2)はカナダと欧州で流行、Bは全期間を通じて各国で散発した。(2)A(H1N1)、A(H3N2)、Bの流行国:上記概略の具体的な国名の膨大なリスト。本号後半にも似たような話題があるので略。(3)高病原性A(H5N1)人感染例:06年9月-07年2月の間に人感染確認例31例。中国、エジプト、インドネシア、イラク、ナイジェリア、タイ。多くは鳥の高病原性A(H5N1)集団発生に伴う。03年12月以降11カ国で272例の人を確認、人から人への直接伝播例は確認されておらず、WHOの対策勧告は3相を維持。(4)最近の流行分離株の抗原性:a)A(H1N1)ウイルスでは免疫フェレット血清のHI反応の結果ではワクチン株であるA/New Caledonia/20/99と類似しているがA/Solomon Islands/3/06に強く反応する株が増加(最近の分離株とワクチン株の交叉HI反応結果の一覧表あり)。b)A(H3N2)ウイルスではワクチン株のA/Wisconsin/67/05、A/Hirosima/52/05と類似、最近の分離株で抗原性、遺伝子分析でやや変化があるがワクチンとしては十分カバー出来る模様。c)B型ウイルスではワクチン株のB/Victoria/2/87とB/Yamagata/16/88の2系列のウイルスの流行が続行。フェレット免疫抗血清のHI反応でB/Victoria/2/87はB/Malaysia/2506/04と類縁。d)M2阻害剤耐性ウイルス:アマンタジン、リマンタジン耐性A(H1N1)株は全世界で分離が続いており、同耐性A(H1N1)株は国によって差があるが、分離されている。e)不活化ワクチン接種後の調査:現行のA型(H1N1)、A型(H3N2)、B型ワクチン接種後HI抗体上昇状況を調査(詳細な数字の記載あり、略)下記の推奨組み合わせが決定された。(5)WHO推奨のワクチン株組み合わせ:A型(H1N1)ウイルスはA/Solomon

Islands/3/06、A型(H3N2)ウイルスは A/Wisconsin/67/05 (A/Hirosima/52/05) B型ウイルスは B/Malaysia/2506/04 それぞれの類縁ウイルス。(6)WHOの実験室診断用の標準品は WHO、米合衆国、オーストラリア、英国、日本(感染症研)各国の国立センターを通じて供給される(連絡先一覧表あり)。

インフルエンザ。北半球における 07 年第 1 - 7 週の発生状況：全体として増加中であるが中程度の発生。A(H3N2)が欧州地域といくつかのアジア諸国で 1 月上旬から増加、A(H1N1)は米合衆国、東欧の数カ国で流行、B の流行は少ない(注：以下、国別の詳細な記載があるが長文かつ非常に煩雑なので本抄訳ではいくつかに分類、まとめて紹介する)。第 1 - 2 週に A(H3N2)の流行が始まり 4 週ころから増加した国：オーストリア、ブルガリア、クロアチア、スロベニア、デンマーク、ノルウェー、フィンランド、アイスランド、スペイン、スイス、イタリア、ルクセンブルグ、ギリシャ、香港、韓国、イラン、イスラエル。局地的に A(H3N2)が発生した国：フランス、英国、日本。A(H3N2)が A(H1N1)、B と混合流行した国：ロシア、ウクライナ、ルーマニア。A(H1N1)と A(H3N2)の混合流行：チュニジア。米合衆国では A(H1)が A(H3)より多く、B は少ない。他に散発しているのが中国(A と B)、ドイツ(H1 と H3)、マダガスカル(B)、メキシコ(A と B)など。アルゼンチン、ウガンダでは発生なし。

WHO 国際検疫病公示。2月 23 日 3月 1 日届出。コレラ：アンゴラ、コンゴ、象牙海岸、ジブチ、スーダン、ジンバブエ。

2007 年 3 月 9 日 (82 巻 10 号) <http://www.who.int/wer/2007/wer8210/en/index.html>

インフルエンザ。世界の状況。06 年 9 月 - 07 年 1 月：インフルエンザの流行は最近数年の同時期に比し一般に低かった。北半球では流行は前年より遅く 11 月に始まり、12 月に北米、1 月には欧州で流行し、南半球では軽い流行が 9 月に続き 11 月に消失した。(注：以下、前号の内容と著しく重複するので抄訳)。A(H1N1)は南米で局地的、米合衆国で集団発生し、世界インフルエンザサーベイランスネットワークの結果では分離株はワクチン株の A/ニューカレドニア類似であるが最近 A/ソロモンに、より類似している。A(H3N2)は欧州、カナダとアジアの数カ国で優位でワクチン株の A/ウイスコンシンと A/広島に類似しているが最近の分離株とは区分可能である。B は小規模発生、ワクチン株の B/マレーシアに類似。アフリカ地域 7 カ国、アメリカ地域 13 カ国、アジア地域 13 カ国、欧州地域 28 カ国、オセアニア地域 4 カ国 計 65 カ国から報告があり、15 カ国で地域的流行あり、A(H1N1)は米合衆国など、A(H3N2)はブルガリア、カナダ、クロアチア、チェコ、ギリシャ、アイスランド、ルクセンブルグ、マダガスカル、ノルウェー、韓国、ルーマニア、スウェーデン、スイスなどから報告、B は報告なしであった(月別、国別の分離ウイルスの詳細な一覧表あり)。

髄膜炎菌性髄膜炎の流行リスク。アフリカ。注目すべき根拠(長文であるが本週報の 82 巻 5 号、本年 2 月 2 日開催の国際会議報告と殆ど重複するので抄訳):(1)緒言と要約。アフリカ

の髄膜炎ベルト（注：サハラ砂漠南縁の髄膜炎菌常在諸国。以下ベルトと略）ではこの数年間髄膜炎発生が減少していたが、06年の流行期に入り激増（マリ、ニジェール、スーダンなど）、大流行が予測され、WHOは対策を緊急警告している。内容は1)今後2年間でワクチン供給不足が予測される。ワクチン入手可能性の向上が急務である。2)一次医療センターにおける一次治療薬として現行のクロラムフェニコール(CF)単独には限界があり、セフトリアキソン(CTX)導入を考慮する。3)ワクチン、治療薬、検査機材の備蓄など危機対策の状況を国家レベルで評価する。4)資金準備と財政的裏づけ。(2)疫学。髄膜炎の流行はベルト諸国で3-4年ごとに流行、77-81年、86-90年、95-97年の3回、大流行が発生している(1970年~2006年のグラフあり)。国単位で見ると地域差が大きく、例えばブルキナファソでは3-4年毎、エチオピアでは8-10年毎になっていて、1920年代の流行はエチオピア、ナイジェリア、スーダン、89年はエチオピア主体、96年はナイジェリア主体であった。05年の発生が最低で06年に入り急増、4月末で3万例以上届出、スーダンとブルキナファソで流行(地図あり)、従来の血清型A群のST-3、ST-7型にかわりST-2859型がブルキナファソで大流行している。(3)07-08年に予測される大流行の筋書き(シナリオ):ベルト以外の国では流行しない。ブルキナファソ、エチオピア、ニジェール、ナイジェリア、スーダンの5カ国。07年と08年で、それぞれ無関係に流行発生。現状の予防作戦は流行発生にインパクトをもたない。(4)ブルキナファソの緊急状況:06年の5ヶ月にわたる流行で19,000名罹患、1,500名以上死亡、約400万人が3ヶ月間にワクチン緊急接種をうけ、保健従事者9,000人以上が動員され他の保健活動に多大な影響があった。3,500万米ドルの経費を要し、これは03年年間政府予算の5%に相当した。今後2年間の間に、同様の事態がベルトの数カ国で発生することが予測される。(5)緊急資材備蓄問題:07-08年の多糖類ワクチン供与。AC2価ワクチンは06年に製造工程と流通の問題から大量に廃棄、絶対的不足が発生、さらにメーカーの問題から製造検定が間に合わないと予測される。ACW3価ワクチンはメーカーの努力と国際機関の支援で量産可能となったが経費に問題があり(AC2価ワクチンの2倍)、WHOはW135型の流行国だけの使用を勧告、A、C、Y、Wの4価ワクチンはサウジアラビアへのメッカ巡礼者だけが接種対象となっている。ウガンダにおいて06年末、減量接種の接種試験実施、現在結果待ち。油性CFの最近の状況:05年の発生数減少で使用量減少、備蓄は不足気味でWHOは次の流行に備えて備蓄を勧告。国際消費者連盟によれば06年6月時点で備蓄は3万バイアル、06年内にさらに16万バイアル追加、必要量を満たすと予測されている。CFTをWHOは二次選択薬として推奨。進行中の改善目的:a)多糖類ワクチンの入手可能量の増加、b)治療薬の無料供給、c)必要な経費の準備を国際協力で(以上についてはこれまでの記載とほぼ同じなので、略)。

WHO 国際検疫病公示。3月2-8日届出。コレラ:ギニア、ルワンダ、象牙海岸、シエラレオネ、ザンビア、ジンバブエ。

愛知県感染症情報

2007年第11週(平成19年3月12日～平成19年3月18日)

愛知県衛生研究所

		定点数																									
愛知県		インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹	RSウイルス感染症	鳥インフルエンザ(高病原性インフルエンザを除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
愛知県 (名古屋市を含む)		195	182	35	51	13	26	4,686	57	312	1,461	312	22	97	106	1	0	4	1	75	0	10	1	0	6	0	0
総数 (名古屋市は除く)		125	112	24	37	12	21	3,831	39	223	1,129	247	18	82	84	1	0	3	1	54	0	10	1	0	5	0	0
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1	5	855	18	89	332	65	4	15	22			1		21					1		
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	1	152	4	20	37	11		4	3					1							
海部	津島	7	7	2	2	1		296	4	8	105	28	6	6	9				1	1					2		
尾張中部	師勝	4	4	1	1			94		2	25	7		1								2					
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1		350	1	11	99	32	1	8	10					2		2					
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	1	522	9	27	106	23		14	6	1		3		1							
	江南	6	6	1	2		9	237	4	19	90	5		2	16					3		1					
知多半島	半田	6	6	1	2	1	5	161	5	16	47	22	1	9	7					20		2	1		2		
	知多	7	7	2	2		1	175	7	15	55	20		2	3					8							
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1		338	1	18	69	18	5	7	9					3							
	衣浦東部	13	13	2	4	1		345	3	25	110	19		7	3					3							
	西尾	5	5	1	2	1		118		9	69	12	2	3	6					1		1					
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1	1	378		19	92	19		5	2					2					1		
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1		401		15	143	7	3	3	3					3		1					
	豊川	9	8	1	2	1	3	246	1	18	82	22		11	7					4		1					
東三河北部	新城	2	2			1		18		1		2								2							

